

2009年11月20日

アパレル生産業界を牽引して半世紀
JUKI 縫製研究所 2009年11月に設立より50周年



アパレル生産を行われるお客様の製品品質・生産性向上のサポート活動を続けてまいりました、JUKI 株式会社「縫製研究所」が、2009年11月に設立より50周年を迎えました。

縫製研究所(当時、縫製能率研究所)は、当社が工業用マシン事業を開始した6年後の1959年に設立されました。当時の縫製工場は、家内工業的な産業構造のため、カンと経験に頼った工場運営が行われていました。

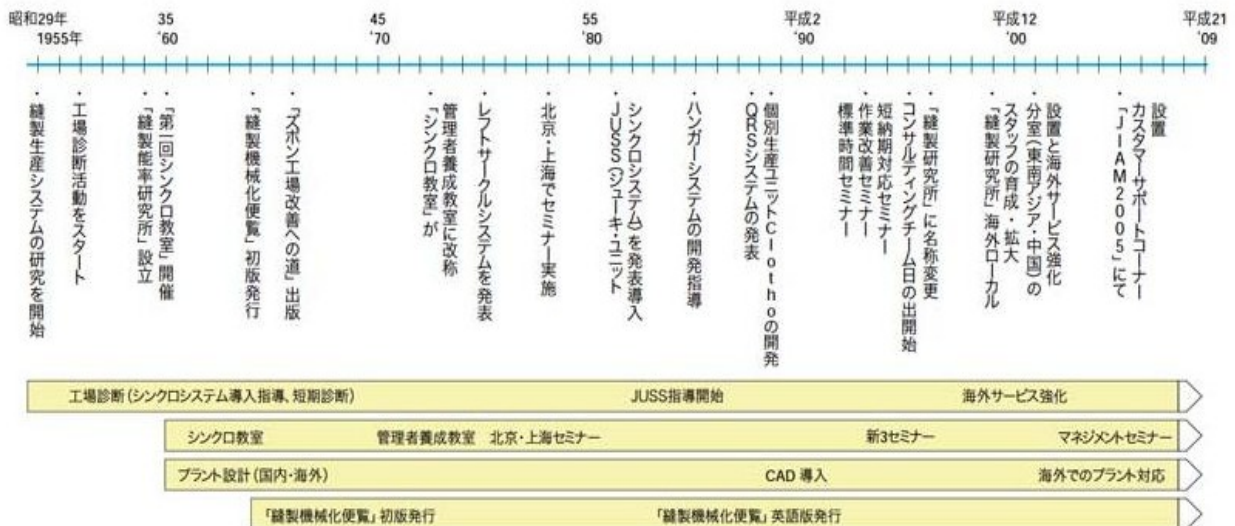
「データを基に、科学的な管理に基づくものにしなければ、縫製産業の将来はない」—そう考えたトップが社内で縫製生産システムの研究を指示、その成果を元に、工場近代化の支援を行う専門部門としてスタートしたのが始まりです。こうした生産管理、IE技術を用いた活動は、当時、縫製産業の未来を開く活動として日本能率協会・経営選書などでも取上げられ話題となりました。

縫製研究所の活動は、大きく分けて3つあります。一つ目が「工場診断」です。アパレル生産工場の現状を科学的に分析し、生産性向上のための改善をご提案します。これまで国内外合わせて6,000社を超える実績があります。二つ目が「プラント設計」です。生産性は工場建設時のレイアウトが大きく左右します。縫製システムや生産量にあわせて、最も合理的な使用設備を割り出し、効率的で発展性のある工場レイアウトを設計します。三つ目が「各種セミナーの実施」です。マネージメントセミナー、作業改善セミナー、品質管理セミナー、商品分解セミナー、アタッチメント製作セミナーなど、多彩なプログラムでお客様が抱える問題の解決をサポートしています。これまで国内外で62,000人以上の方が受講しました。現在、こうしたサポート活動は日本の他に、5カ国の専門スタッフが担っています。

当社は、1953年に工業用マシン事業に後発メーカーとして参入しましたが、販売体制の拡充とあわせ、縫製研究所の設立準備が同時に進められました。縫製研究所が行ってまいりましたコンサルタント的なビフォー、アフターのサービスは差別化された活動として、当社商品の満足に加え、JUKIブランドの信頼に大きく貢献しています。

「縫製業」は、当初の設備投資が少ないことから、カンボジアやバングラデシュなど、アジアの小さい国々でも取り組みやすい産業です。当社は、こうした国々をはじめ、お客様縫製工場の生産性を上げるための活動を継続して実施し、世界の縫製産業の発展に貢献してまいります。

◆JUKI 縫製研究所 50 年のあゆみ



* 詳しくは、JUKI Magazine vol.237「縫製研究所 50 周年特集」をご覧ください。

<http://www.juki.co.jp/jm/magazine/vol/vol237/jmv237p02.html>

当リリースに関する問合せ先

工業用ミシン事業部 飛田 茂 TEL03-3480-2358

経営企画部 広報・IRグループ 林 桐子 TEL03-3480-1742